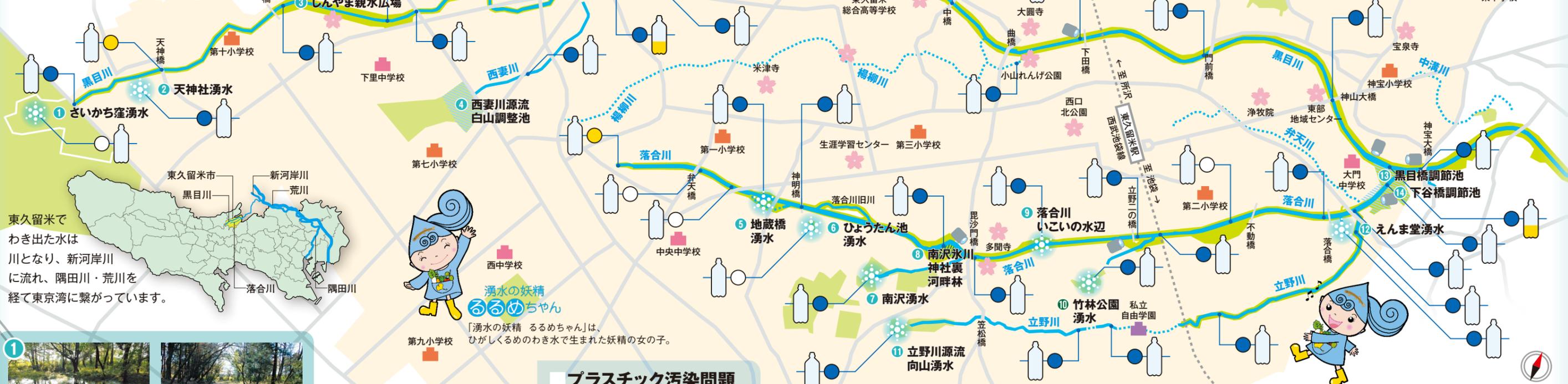


東久留米 水辺のマップ

水環境マップ2.0

身近な川の流域の水環境や安全な暮らしに関わることをまとめ、道しるべとして使うことを目的にしたマップです。水質やごみを調べる活動に参加してみたい方は、関連のQRコードをご覧ください。



東久留米の湧水散策

市内の「黒目川」「落合川」「立野川」流域には、崖線タイプ・谷頭タイプの湧水点が69箇所と数多くあります。



東久留米でわき出た水は川となり、新河岸川に流れ、隅田川・荒川を経て東京湾に繋がっています。



黒目川源流・さいかち窪湧水（豊水期にわき出す）



黒目川・天神橋上流



黒目川：しんやま親水広場



西妻川源流・白山調整池



落合川・地蔵橋湧水



「湧水の妖精 るるめちゃん」は、ひがしくめのわき水で生まれた妖精の女の子。

プラスチック汚染問題

プラスチックは便利な反面、人や生態系に影響を与えることから世界的な問題になっています。とくに微細なマイクロプラスチックは環境中に広く拡散し、人体にも蓄積し始めています。流域全体で賢く減らしていくための消費行動が必要です。



雨水を循環、雨水浸透ますへ

市内の豊かな湧水を保全するためには、地下水を増やすことが大切です。そのため、市では屋根に降った雨を地下へ戻す浸透ますの設置に補助を出しています。



東久留米は名水のまち

東久留米市は2011年6月に湧水・清流保全都市宣言を行っています。市内では、「南沢緑地」「竹林公園」「黒目川天神社」の湧水が、「東京の名湧水57選」として指定されています。とくに「落合川と南沢湧水群」は、行政と地域住民との連携により持続的な水環境の保全活動が行われ、「平成の名水百選」に都内で唯一選定されています。



全国水辺のごみ調査

水辺でペットボトルなどの3品目のごみの個数調査を実施しています。誰でも参加できます。その中の2025年のペットボトルの調査結果を表示しています。



凡例	0本	1~4本	5本以上
ペットボトル個数			

市民による東久留米市内の川の水質調査結果

毎年6月に全国の水辺で一斉に水質を市民が調査をしています。調査している項目は気温、水温、CODです。そのうちのCOD値の結果を3段階に分けて表示しています。CODの値が小さいと水はきれいだと判断します。2025年6月には落合川や黒目川などの水辺48地点の水質調査が行われました。



凡例	0~3mg/L	3~6mg/L	6mg/L以上
COD値			



落合川・ひょうたん池湧水



落合川・南沢湧水・御神酒酒沢流れ

落合川・南沢湧水・海老沢流れ



落合川・南沢湧水 水質調査



落合川・河畔林 南沢水川神社裏の河畔林



落合川・いこいの水辺



落合川・竹林公園湧水



いこいの水辺の河床湧水



落合川・えんま堂湧水



立野川源流・向山湧水

東久留米 水辺のマップ

水環境マップ2.0

身近な川の流域の水環境や安全な川に関わることをまとめ、道しるべとして使うことを目的にしたマップです。水質やごみを調べる活動に参加してみたい方は、関連のQRコードをご覧ください。



河畔林の話

1990(平成2)年に始まった落合川の河川整備計画では蛇行箇所は直線化するためになくなる予定でしたが、蛇行して残されている南氷川神社裏の河畔林の保



全方法を永年「川の交流会」で、市民と都の河川管理者と長年協議して、河畔林保全のため河川用地を広げる計画が2000(平成12)年東京都知事告示にて落合川の河畔林の保全が決定されました。

市内の水辺で1年中見ることが出来る鳥



コサギ ダイサギより小さく、くちばしが黒く、足指が黄色で見分けられます。水中で片足を震わせて獲物を追い出す習性があります。



アオサギ ダイサギより大きく、日本最大のサギ。体の上面が灰色で見分けがつく。じっとしてほとんど動かず獲物を狙っています。



ダイサギ 水の中や水草の上に立って獲物を狙っている姿をよく見かけられます。「シラサギ」の中で、最も大きく、くちばしが長く、くちばしは黄色。足指は黒。



ハクセキレイ 水草の上や岸辺を歩き、虫などのエサを探している。チチン・チチンと鳴きながら波上に飛んでいるのも見かけられます。白い顔で、目の所に黒い線があります。



カルガモ カルガモは、ほかのカモと違って、オスもメスも同じ褐色の体をしていいます。口ばしは黒く先端が黄色いのが特徴。市内では春から夏にかけて10羽近くの子ガモを連れてた親カモを見ることがあります。



東久留米の川の絶滅危惧種 環境省レッドデータブック 掲載種



今、日本の中で絶滅の危機にさらされている動植物があります。これらの生きものの絶滅のおそれがある以上深刻にならないよう環境省ではレッド

ナガエミクリ ナガエミクリは、わき水の川の流れの中で生育し、夏頃に水上に茎をのぼして花を咲かせ、その後、クリのイガのような実をつけます。オオカワジシャなどの外来種と競合して減少しています。

タコノアシ 日当たりの良い川の岸辺など、水位が変動する湿地に生育しています。茎の高さは30~80cmになります。花や実がびっしり並んでいる姿をタコの吸盤に見立ててこの名がつけました。

データブックリスト・絶滅危惧種として発表しています。ここでは、東久留米の川の絶滅危惧種について紹介します。

ムサシノジュスカケハゼ 体長は最大で6cmで、メスの方が大きい。関東地方のみに分布し、ゆるやかなわき水の川に生息しています。ドンコやカワヨシノポリなどの外来種による捕食や競合などにより減少しています。

絶滅危惧種の移入・国内外来種の課題 他地域で絶滅危惧種に指定されているオヤナラミは、東久留米の川に人が移入し、生態系への影響が懸念されています。

国内外来種 オヤナラミ 体長は最大で13cmで、普通10cm以下のものが多い。エラの後ろの方に目のような青い紋があります。九州から西南日本の流域に生息していますが、市内では、数年前から落合川で見られるようになりました。

川沿いの歴史的なあれこれ

川沿いには大正、昭和、平成の時代の歴史的な跡(あと)がたくさん残っています。例えば川が曲がりくねって流れていた頃の跡です。黒目川、落合川では治水目的で川幅を広げ真っ直ぐにしたため、使われなくなった流れの跡が広場や歩道、空き地として残っています。また橋や護岸(ごがん)には、いつ頃工事がされたのか、プレートに書かれているので、川の改修の歴史を振り返ることができます。

調節池の話

黒目川と落合川の合流点では、黒目川・落合川両河川の洪水を取り込む施設として2018(平成30)年に黒目橋調節池が、治水対策として地下箱式の調節池(地上はスポーツセンターと公園)が完成しました。又、黒目川と落合川の合流点の落合川右岸は旧石器時代、縄文時代、中・近世紀にまたがる複合遺跡の「川岸遺跡」があり、遺跡発掘調査を1979(昭和54)年から市と都で2021(令和3)年まで実施しました。

詳しくはQRコードから自由学園環境文化創造センターブログへ

遺跡発掘調査終了後に調節池整備が始まり、2025(令和7)年7月に「川岸遺跡」は掘込式落合川下谷橋調節池となりました。

現在、下谷橋調節池の利用について史跡公園やピオトープやスポーツ公園等を東京都と東久留米市で検討している。

河川の水位・雨量をリアルタイムで知る

市内の黒目川と落合川流域には、河川に6か所の水位計、上下流に2か所に雨量計があります。雨の量と川の水位の関係を見ることができます。東京都防災総合情報システムHPでリアルタイムで情報を得られます。

詳しくはQRコードから自由学園環境文化創造センターブログへ

河川ライブカメラ

市内の黒目川と落合川には、6か所の河川ライブカメラがあります。それぞれのQRコードから見ることができます。

- A 黒目川・下田橋
- B 黒目川・黒目橋調節池取水口
- C 黒目川・神宝大橋
- D 落合川・毘沙門橋
- E 落合川・立野二の橋
- F 落合川・黒目橋調節池